

# 人文社会科学部人文社会科学科社会科学コースにおける授業改善 ー 複数教員による複眼的な教育方法のアーカイブ化による授業改善（実施報告）ー

■ 山内高太郎

## はじめに

本稿は、高知大学教育研究活性化事業（教育改善・修学支援）「複数教員による複眼的な教育方法のアーカイブ化による授業改善」の実施報告である。実施報告であるため、論文形式となっていないことをはじめにお断りしておく。また、人文社会科学部人文社会科学科社会科学コース（以下、社会科学コース）は、2016年（平成28年）に人文学部が人文社会科学部に改組したことに伴い設置されたコースであるため、本講執筆時である2018年度は、まだ完成年度を迎えておらず、以下に述べる授業の内容や方法の変更についての教育効果について十分な検証ができていない。このため、完成年度となる2019年度の検討結果によっては異なる意見や評価となる可能性がある。また、本稿の意見や評価は、社会科学コースとしての検討結果ではなく、私見であることを申し添えておく。

## 1. 社会科学コースの教育の特徴

2016年4月、人文学部が人文社会科学部へ改組し、それまでの1学部3学科制から1学部1学科3コース制に変更された。この3コースのひとつである社会科学コースは、人文学部社会経済学科をもとに設置されたコースであり、経済学、経営学、会計学、法学、政治学、社会学を専門とする教員によって構成され、入

学定員は98名、卒業時に授与される学位は経済学となっている。

社会経済学科から社会科学コースへ改組する際に、ディプロマ・ポリシーを「経済学とその他経営学・会計学・法学・政治学・社会学を幅広く学び、かつ特定分野を段階的に集中して学び、当該分野の専門性を身につける。社会制度の基本的な構造を多角的に検討し、理解することができる。」に変更し、ディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラムとして、専門科目を4つの分野（経済理論、経済政策、経営・会計、法律・政治）にわけ、社会制度設計をキーワードに教育を行うこととした。さらに、少人数教育（ゼミナール）を重視し、4年間の学びの成果となる卒業論文を作成するための基礎的な思考や能力を育成するために、新たな教育内容や教育方法を取り入れることとした。

このため、人文社会科学部のすべてのコースで必修科目となっている「リサーチリテラシー」「グローバル社会と地域」に加えて、コース独自の必修科目として1年生の第2学期に「社会制度設計論」、2年生の第1学期に「社会制度設計演習Ⅰ」、第2学期に「社会制度設計演習Ⅱ」を新たに配置し、3年生の専門演習（ゼミナール）を複数履修できる体制とした。

教育方法の特徴的な変更として、「社会制度設計論」

と「社会制度設計演習Ⅰ」を複数の専門分野の教員による講義や演習とし、とくに「社会制度設計演習Ⅰ」ではチームティーチング、アクティブラーニング、フィールドワーク等を取り入れた。

#### (1)「社会制度設計論」の授業内容と授業方法

社会制度設計論は、当初、社会制度に関するテーマ設定し、複数の専門分野の教員によるオムニバス形式による講義と学生のグループワークを組み合わせた形式とし、学生の自主的な学びによる気づきを重視し、様々な社会制度を理解するとともに複数の専門性から社会制度を分析する基礎能力を育成することを目的とした。しかし、社会科学コース以外の学生の受講を認めたことで、受講者数が大幅に増加し学生の受講目的や姿勢が多様化したため、教育方法の変更が必要となった。また、担当する教員間においても講義の目的や方法について共有化が十分にできなかった等の理由から授業内容や授業方法について改善が必要となった。

担当教員間で講義の目的や方法について共有化するためにFDを実施するなど改善をはかったものの、10名程度の教員が1つの授業に関わったことで、講義目的についての教員間で共通認識が十分に形成できたとはいえず、各教員が設定されたテーマに対してどのような考えや視点から講義を行ったのかについて教員間で共有化が十分にできなかったこと等、教員間のコミュニケーションが課題となった。

2017年度は、授業担当者の人数、選出方法や授業内容を見直し、授業開始の半年前から担当する教員全員で授業内容について十分に話し合い、複数の専門分野の教員3名が1つのテーマについて各教員の専門の視点から各1回の講義（計3回）の講義を行い、3回の講義内容に対する学生の質問にこたえる授業を1回もうけることで学生の理解を深めるという授業方法に変更した。また、各教員の授業内容は、学生が社会制度について多角的に検討し、理解することができる基礎的な能力をもつことができるようなものとするとし、この点について担当教員間で共通の理解をもつことができた。

図表1 社会制度設計論の受講者アンケート結果  
(一部)

|                             | 2015年度<br>(n=78) | 2016年度<br>(n=84) | 2017年度<br>(n=187) |
|-----------------------------|------------------|------------------|-------------------|
| 授業の出席率<br>※1                | 53.8%            | 48.81%           | 32.62%            |
| 授業に対する<br>満足度※2             | 75.6%            | 73.8%            | 86.1%             |
| 授業に対する<br>理解度※3             | 91.1%            | 91.66%           | 74.87%            |
| 社会に存在する<br>制度について<br>の理解度※4 | 89.8%            | 86.91%           | 84.7%             |
| 多面的に分析<br>する能力の向<br>上※5     | 71.8%            | 76.19%           | 70.88%            |

※1 毎回出席したと回答した割合

※2 満足、どちらかといえば満足と回答した割合

※3 理解できた、だいたい理解できたと回答した割合

※4 理解できた、だいたい理解できたと回答した割合

※5 身に付けることができた、だいたい身に付けることができたと回答した割合

2017年度に生じた新たな課題として、受講定員に制限を設けなかった結果、社会科学コース以外の受講者が想定以上に増加し、履修登録者が200人を超えることとなったことで、担当教員の大幅な負担増や教育効果についての懸念があげられた。

#### (2)「社会制度設計演習Ⅰ」の授業内容と授業方法

改組前の社会経済学科では、2年生のゼミナールを3年生、4年生のゼミナール（専門演習）の基礎能力の育成を目的として位置づけ、各教員の専門や授業方法に基づき授業を行ってきたが、社会科学コースでは、学生が複数の専門分野の知識を組み合わせることで社会制度を理解、分析する能力の基礎を身につけられるような授業内容に変更するとともに、授業方法を2年生第1学期の「社会制度設計演習Ⅰ」では従来の個別教員によるゼミ形式（1ゼミあたりの定員10名程度）から複数の専門分野の3名の教員によるチームティーチング形式（1ゼミあたり定員25名程度）に変更した。

「社会制度設計演習Ⅰ」の担当教員は、コースの運営等を決定する執行機関が、担当可能な教員と授業テーマについての原案をコース会議で提案し、コースに所属する教員に協力依頼という形式で決定している。担当教員が確定後、担当教員間で授業テーマについて話し合い、修正、変更をへて学生に公表する授業テーマを確定している。受講する学生は事前に示された授業テーマ、教員の構成、授業内容等についてシラバスで確認し、受講を希望するグループに応募し、定員を超えた場合は抽選によって受講するグループを決定している。（これまで開講したテーマは図表2に、担当教員の組み合わせは図表3に示した。）

図表2 社会制度設計演習Ⅰ 授業テーマ

| 2016年度       | 2017年度         | 2018年度       |
|--------------|----------------|--------------|
| コモンズ         | コモンブル財の利用や管理   | 不動産のリスクと管理   |
| 金融制度と企業の資金調達 | 税制度            | 地場産業における競争   |
| まちづくり        | 少子高齢化社会における働き方 | 環境保全・利用      |
| 少子高齢化        | 刑事政策           | 地域企業のブランディング |

図表3 グループ別担当教員の専門分野

| 年度   | グループ  |       |       |       |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 2016 | 経済理論  | 経済理論  | 経済理論  | 経済理論  |
|      | 経済政策  | 経営・会計 | 経済政策  | 経済政策  |
|      | 法学・政治 | 法学・政治 | 法学・政治 | 経営・会計 |
| 2017 | 経済政策  | 経済理論  | 経済理論  | 経済理論  |
|      | 経済政策  | 経営・会計 | 経済政策  | 経済政策  |
|      | 法学・政治 | 法学・政治 | 経営・会計 | 法学・政治 |
| 2018 | 経済理論  | 経済理論  | 経済理論  | 経済政策  |
|      | 経営・会計 | 経営・会計 | 経営・会計 | 経済政策  |
|      | 法学・政治 | 法学・政治 | 法学・政治 | 経営・会計 |

授業方法を変更した初年度となる2016年度は、授業のコンセプトを各グループの責任者間で共有し、各グループで学生の自主的な学びを促進するような授業方法をとること及び4グループ合同のプレゼンテーション

を行うこととした。これまでに実施したことのない授業方法であったこともあり、各グループ内での打ち合わせに加えて、4グループの受講状況や授業内容、授業方法の共有化や合同のプレゼンテーションに向けた打ち合わせのために全体的なFDを授業開始前、授業途中、授業終了後に実施した。各グループ内での打ち合わせの回数は、多いところで15回の授業に対して10回以上行っており、FDにおいても教員間のコミュニケーションの重要性や教員の教育負担が多くなったことが指摘されている。

2017年度は、初年度の経験をいかして学生の自主的な学びや授業時間外学習を重視し、すべてのグループにおいてグループワーク、プレゼンテーション、フィードバックを取り入れるとともに前年度に引き続き4グループ合同のプレゼンテーションを行うこととした。こうした取り決め以外に、グループによっては、教育内容や効果を考えて学生による調査や外部講師による講演等を加えるなど工夫がみられた。2018年度は、はじめて担当する教員が増えたこともあり、授業のコンセプトや授業方法の共有に課題が生じた。

授業評価については、すべてのグループにおいて授業参画30%、プレゼンテーション30%、課題40%をシラバスに明記することとし、具体的な評価方法や評価基準は各グループで決定することとしている。また、14回目または15回目の授業においてグループごとに無記名の受講者アンケートを実施し、FDにおいて学生の意見と教員の評価をすりあわせて教育効果について検討している。

受講者アンケートからは複数の専門分野の視点から考えるという授業の目的は達成されており、学生が自主的に学ぶことによる教育効果は大きいことが読み取れる。他方、教員の評価（秀・優の割合）は、2016年度77%、2017年度67.3%、2018年度55.7%と逡減している。この原因として、グループごとに評価基準を設定していることやグループによって受講する学生の学力に偏りがあること、開講年度によって学生の授業に対する姿勢（毎回の出席率や授業時間外学習への取り組み状況）が異なること等が影響していると考えられる。

図表 4 社会制度設計演習Ⅰの受講者アンケート結果  
(一部)

|                                   | 2016 年度<br>(n=95) | 2017 年度<br>(n=100) | 2018 年度<br>(n=90) |
|-----------------------------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| 授業の出席率※1                          | 61.1%             | 63%                | 55.6%             |
| 授業に対する満足度※2                       | 93.7%             | 94%                | 94.4%             |
| 授業に複数の専門分野の視点から考えることができるようになったか※3 | 94.7%             | 95%                | 96.7%             |
| 複数教員による授業の学びやすさ※4                 | 80%               | 92%                | 76.7%             |
| 自主的な学びによって理解が深まったか(注) ※5          | 96.8%             | 98%                | 100%              |

(注) この授業は、学生が自主的に学ぶような設計になっていましたかという問いに対して成っていたと回答した学生のみ (2016年度 n=93、2017年度 n=100、2018年度 n=86)

- ※ 1 毎回出席したと回答した割合
- ※ 2 満足、どちらかといえば満足と回答した割合
- ※ 3 できるようになった、どちらかといえばできるようになったと回答した割合
- ※ 4 学びやすかった、どちらかといえば学びやすかったと回答した割合
- ※ 5 深まった、どちらかといえば深まったと回答した割合

### (3) 複数の専門分野の教員による授業の課題と対応

社会科学コースの「社会制度設計論」及び「社会制度設計演習Ⅰ」における複数の専門分野の教員を組み合わせることで授業を形成するという試みは、どのような授業を作ることができるのか検討する時間が十分でなかったことや教員の授業負担の公平性の観点から基本的にコースに所属する全教員で担当することとなっている。当初の目論見では、2、3年実施することである程度授業が形成され、教員の授業負担は軽減されると考えられていた。

しかし、毎年担当者やその組み合わせが変更され、情報が集約されてこなかったため、新しく担当する教

員が授業内容についての情報を得ることが困難となっていた。また、コース全体でこれらの授業の内容や改善点が共有化されなかったことや授業の内容や目的についての理解に差異が生じたことで、一部のグループにおいて当初コースで合意した授業目的や授業方法と異なる授業が形成される要因となった。

また、情報の共有が不足したことや授業の内容や目的についての理解の差異は、教員間のコミュニケーションにも影響を与え授業に対する負担感を増加させる要因ともなった。

こうした状況に対してFDの実施によって対応したが、FDによって共有された内容は、担当教員の変更による引き継ぎ等の問題から次年度の授業に活かされないという状況が生じた。こうしたことから情報を一カ所に集約して保存するということが重要な意味を持ち、さらに新しい授業の教育効果の継続的な検証という観点からも必要とされた。

## 2. 複数教員による複眼的な教育方法のアーカイブ化

### (1) 社会科学コースにおける教育方法のアーカイブ化の目的

社会科学コースでは、教育研究活性化事業の採択により「社会制度設計論」及び「社会制度設計演習Ⅰ」の授業形成資料のアーカイブ化を行うこととした。授業形成資料をアーカイブする主たる目的は、授業形成資料を集約し、授業内容や形成過程を可視化、共有化することで複数教員による授業をコースの教育方針にあわせて体系化するとともに教員間のコミュニケーションを活発にし、今後の授業の形成や改善を効率的に行うことにある。

### (2) アーカイブの方法と資料

Word や Excel、Acrobat Reader など多くの教員のパソコンにインストールされている市販ソフトで閲覧可能なファイル形式でデータベースを作成することとした。また、アーカイブする資料には、個人名や成績が含まれ情報漏洩リスクがあるという判断からイン



ターネット経由でアクセスはできないスタンドアローン PC に保存し、コースの教員は必要に応じて容易に閲覧できる場所に配置することとした。

収集する資料として、授業で配布した資料、フィールドワークに関する資料、FD の資料、授業アンケート及び分析資料、担当教員間の打ち合わせ資料等の授業形成資料とし、これらに加えて資料の全体像を容易に把握するために授業概要や授業レビューを新たに授業担当教員が作成し、保存することとした。

#### ① アーカイブ化ができたもの

アーカイブ化ができたものは、授業の配布資料、FD の資料、授業アンケート、授業概要、授業レビューである。授業の配布資料については、印刷物の配布やプレゼンテーションソフトを利用せず、板書や口頭のみで授業を行っている場合がみられ、網羅することはできなかったが、授業概要や授業レビューを通して一定のイメージを共有化することができると考えている。

また、アーカイブ化作業にともない FD とは別に授業担当者と授業内容についての話し合いの機会をもてたことでシラバスからはわからない実際の授業の進行上の工夫や課題が把握できたことは一定の意義があったといえる。

#### ② アーカイブ化ができなかったもの

「社会制度設計演習Ⅰ」では、全体の FD の他に担当グループ単位で話し合いが行われ、その内容について全体の FD では実施されたかどうか報告される程度となっている。このため、話し合いの状況に関する資料を収集することで、より詳細な授業形成過程を明らかにできると考えたが、話し合いの大半は口頭で行われており話し合いに関する資料やメモはほとんど集めることができなかった。

また、「社会制度設計演習Ⅰ」では、フィールドワークを課していることからフィールドの設定が一つの課題としてあがっていた。このため、フィールドの設定方法やアクセス方法の共有化について検討を行ったが、現状多くの場合、フィールドの関係者と特定の教

員とのつながりが大きく、コースで共有化したとしてもつながりのない教員がそのフィールドを利用することが難しいことからフィールドの設定方法やアクセス方法については情報収集を行わず、フィールドワークに利用した場所のみ共有化することとした。

### (3) 2017年度のアーカイブ化作業を通して把握できたこと

#### ① 異なる専門分野の教員間コミュニケーション

一般的に複数教員による授業を形成する上での課題として、教員間の円滑なコミュニケーションがあげられ、社会科学コースではこれに加えてひとつのテーマに対してそれぞれの教員の専門性を活かして1つの授業を作ることができるかということがあげられる。

「社会制度設計論」では異なる専門分野の教員によるオムニバス授業を中心に授業形成をしたため、学生が理解しやすい内容とするために各教員の授業内容や論点の調整のために授業全体をコーディネートする教員を決めて対応してきたが、運営がうまくいった年とうまういかなかった年がみられた。この原因のひとつとして教員間のコミュニケーションということがあげられる。

その一方で「社会制度設計演習Ⅰ」では、社会科学コースの4つの専門分野（経済理論、経済政策、経営・会計、法学・政治）の中から原則として異なる3つの分野の教員のチームティーチングとしたことで「社会制度設計論」よりも教員間の話し合いや調整に労力を要すると考えられていた。2017年度、2018年度の「授業形成の概要」をみると少ないところでも1回～3回、多いところでは10回以上の打ち合わせが行われており、「授業形成の概要」の授業担当教員間のコミュニケーションの状況をみると、これまですべてのグループにおいて担当教員間のコミュニケーションに問題は生じていないという結果となっている。

#### ② 多様な授業方法の選択

「授業形成の概要」をみると多様な授業方法を取り入れられていることがわかる。2017年度の「社会制度

設計演習Ⅰ」では、すべてのグループにおいて、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、学生間の教えあい、外部講師による講義が行われており、これらに加えて「少子高齢化社会における働き方を考える」をテーマとしたグループでは、学生主体で企業や関係機関への調査（訪問・インタビュー）を実施し、その結果をもとにプレゼンテーションを行うという授業が行われた。このグループの授業内容は、このグループの一部の教員が前年度に異なる教員との組み合わせで行った授業の経験をもとに形成されたものであり、ある教員のノウハウがチームティーチングを通して、他の教員に引き継がれていることを示す例といえる。

このように、チームティーチングを取り入れた「社会制度設計演習Ⅰ」では、個別の教員の教育の幅を広げる機会となっていることがわかる。

### 3. 学生の自主的な学びを中心とした教育の課題

学生の自主的な学びを中心とした教育について、いくつか課題があげられている。

まず、グループワークを中心に授業を行っているため、まじめに取り組む学生とそうでない学生が存在し、とくに欠席が多い学生がいる場合や授業時間外の話しあいや課題の作成において協力的でない学生への対応や評価をどうするかという問題である。

次に、授業の進行が学生の授業時間外の準備の度合いや授業時間内のグループワークの進行状況に影響されるため、授業時間が不足気味となることである。とくに「社会制度設計演習Ⅰ」ではフィールドワークをとりいれていることや4グループ合同の報告会を実施すること、さらに複数の教員の専門性からの説明を行うためひとりの教員が行う授業に比べて授業内容が多いこともこの原因となっている。

この他に、学生の自主的な学びを中心とした授業の教育効果に対する懸念がある。この問題は、学生の理解の度合いと教員が求める理解の度合いの違いとしてとらえることができ、学生自身の評価である受講者ア

ンケートの結果では学生は一定の水準まで理解できたと考えている一方で、教員の評価である成績の分布はこの結果と必ずしも一致していないということである。

### おわりに

社会科学コースの新しい授業を作成するという試みは3年目を迎えるが、より良い授業とするために現在は試行錯誤を繰り返している状況にあるといえる。これらの授業は、学生の自主的な学びへの転換を促すきっかけとなるとともに、社会科学コースの4つの専門分野を広く学び個別の学生の専門性を複合的に高めることが期待されている。これからも各教員が協力し、授業を形成することが重要だと考えている。

最後に、社会科学コースの事業が高知大学教育活性化事業（教育改善・修学支援）に採択されたことを契機として、「社会制度設計論」、「社会制度設計演習Ⅰ」という新しい形式の授業内容や方法に関する情報の収集を行うことができたのは、多忙である中、資料の提出や作成に教員の協力を得られたことが大きい。ご協力いただいた先生方に改めてお礼申し上げる。

## 付録

### 1. 授業形成の概要

#### (1) 「社会制度設計論」授業形成の概要

社会制度設計論 授業形成の概要

|                              |       |       |    |  |   |  |
|------------------------------|-------|-------|----|--|---|--|
| 授業を行った年度                     |       |       |    |  |   |  |
| 授業担当教員名（○は責任者）               |       |       |    |  |   |  |
| 授業テーマと担当教員                   | 授業テーマ | 担当教員名 |    |  |   |  |
|                              |       |       |    |  |   |  |
|                              |       |       |    |  |   |  |
|                              |       |       |    |  |   |  |
| 授業テーマの決定方法                   |       |       |    |  |   |  |
| 授業の目的                        |       |       |    |  |   |  |
| 授業内容の変更の有無                   | 有 ・ 無 |       |    |  |   |  |
| 授業方法                         |       |       |    |  |   |  |
| FD の実施状況                     |       |       |    |  |   |  |
| 授業担当者間の打ち合わせの頻度              |       |       |    |  |   |  |
| 授業担当者間のコミュニケーションの状況          |       |       |    |  |   |  |
| 授業の進行状況と学生の反応                |       |       |    |  |   |  |
| 学生の授業理解状況<br>(学生の成績分布 (人数) ) | 秀     |       | 優  |  | 良 |  |
|                              | 可     |       | 不可 |  |   |  |
| 受講者アンケートの結果                  |       |       |    |  |   |  |
| 備考                           |       |       |    |  |   |  |

## (2)「社会制度設計演習Ⅰ」授業形成の概要

社会制度設計演習Ⅰ 授業形成の概要

|  |         |                        |           |                        |       |
|--|---------|------------------------|-----------|------------------------|-------|
| 授業を行った年度                                 |         |                        |           |                        |       |
| 授業担当教員名（〇は責任者）                           |         |                        |           |                        |       |
| 授業テーマ                                    |         |                        |           |                        |       |
| 授業テーマの決定において申し送り事項や課題があれば記述してください。       |         |                        |           |                        |       |
| 授業で利用したフィールド                             |         |                        |           |                        |       |
| 授業の目的                                    |         |                        |           |                        |       |
| シラバス記載事項から授業内容を変更したかどうかについて有・無で回答してください。 | 有 ・ 無   |                        |           |                        |       |
| 変更した場合、変更した点について記述してください。                |         |                        |           |                        |       |
| 授業方法（実施した項目に〇）                           | グループワーク | フィールドワーク               | プレゼンテーション |                        |       |
|  | 教員による講義 | 学生間の教えあい               | ICT の利用   |                        |       |
|  | アンケート調査 | 外部講師による講義              |           |                        |       |
| 授業を実施する上で工夫した点や課題について記述してください。           |         |                        |           |                        |       |
| 授業担当者間の打ち合わせの頻度                          | 0回      | 1～3回                   | 4～6回      | 7～9回                   | 10回以上 |
| 授業担当者間のコミュニケーションの状況                      | とくに問題なし | 教育内容について教員間で認識の違いが生じた。 |           | 授業方法について教員間で認識の違いが生じた。 |       |
|  | その他（ ）  |                        |           |                        |       |
| 授業の進行状況と学生の反応                            |         |                        |           |                        |       |
| 学生の授業理解状況<br>（学生の成績分布（人数））               | 秀       |                        | 優         |                        | 良     |
|  | 可       |                        | 不可        |                        |       |
| 受講者アンケートの結果                              |         |                        |           |                        |       |
| 備考                                       |         |                        |           |                        |       |

## 2. 受講者アンケート票

### (1)「社会制度設計論」受講者アンケート票

2017年度社会制度設計論 受講者アンケート

|    |                              |         |            |            |            |
|----|------------------------------|---------|------------|------------|------------|
| Q1 | あなたの所属学部・コースを選んでください。        | 国際社会コース | 社会科学コース    | 人文学部       | その他        |
| Q2 | あなたの学年を選んでください。              | 1年生     | 2年生        | 3年生        | 4年生以上      |
| Q3 | あなたはこの授業にどれくらい出席しましたか。       | 毎回出席した  | ほとんど出席した   | 半分くらい出席した  | あまり出席しなかった |
| Q4 | あなたはこの授業について満足ですか、それとも不満ですか。 | 満足      | どちらかといえば満足 | どちらかといえば不満 | 不満         |



|     |  |             |                 |                   |                |
|-----|--|-------------|-----------------|-------------------|----------------|
| Q5  | あなたはこの授業の内容について理解できたと思いますか、それとも理解できませんでしたか。                          | 理解できた       | だいたい理解できた       | あまり理解できなかった       | 理解できなかった       |
| Q6  | この授業では複数教員によるオムニバス講義を行いました。オムニバス講義は学習を進める上で有効でしたか、それとも有効ではありませんでしたか。 | 有効だった       | だいたい有効だった       | あまり有効ではなかった       | 有効ではなかった       |
| Q7  | 講義を通じて社会に存在する「制度」とはどのようなものか理解することはできましたか、それともできませんでしたか。              | 理解できた       | だいたい理解できた       | あまり理解できなかった       | 理解できなかった       |
| Q8  | 講義を通じて社会に存在する「制度」を設計する際に考慮されている「要素」を理解することはできましたか、それともできませんでしたか。     | 理解できた       | だいたい理解できた       | あまり理解できなかった       | 理解できなかった       |
| Q9  | 講義を通じて社会に存在する「制度」を多面的に分析する力を身に付けることはできましたか、それともできませんでしたか。            | 身に付けることができた | だいたい身に付けることができた | あまり身に付けることができなかった | 身に付けることができなかった |
| Q10 | この授業の良かった点を自由に書いてください。   |             |                 |                   |                |
| Q11 | この授業について改善すべき点について自由に書いてください。  |             |                 |                   |                |

## (2)「社会制度設計演習Ⅰ」受講者アンケート票

### 社会制度設計演習Ⅰ 受講者アンケート

|    |  |        |                        |                               |            |             |
|----|--|--------|------------------------|-------------------------------|------------|-------------|
| Q1 | あなたはこの授業にどれくらい出席しましたか。                         | 毎回出席した | ほとんど出席した               | 半分くらい出席した                     | あまり出席しなかった |             |
| Q2 | 授業を選択するにあたりシラバスを読みましたか。                        | 読んだ    | 読んでいない<br>(Q5に進んでください) | 読んだかどうか覚えていない<br>(Q5に進んでください) |            |             |
| Q3 | Q2で「読んだ」と答えた人だけ教えてください。授業の内容はシラバスに沿っていたと思いますか。 | 沿っていた  | どちらかといえば沿っていた          | どちらかといえば沿っていません               | 沿っていません    | シラバスを覚えていない |

|     |  |           |                        |                      |               |              |
|-----|--|-----------|------------------------|----------------------|---------------|--------------|
| Q4  | Q2で「読んだ」と答えた人だけ答えてください。シラバスに記載された到達目標を達成できたと思いますか。             | 達成できた     | どちらかといえば達成できた          | どちらかといえば達成できなかった     | 達成できなかった      | 到達目標を覚えていない  |
| Q5  | この授業をうけて複眼的な視点から考えることができたようになったと思いますか。                         | できるようになった | どちらかといえばできるようになった      | どちらかといえばできるようにならなかった | できるようにならなかった  |              |
| Q6  | 複数教員による授業は、学びやすかったですか。   | 学びやすかった   | どちらかといえば学びやすかった        | どちらかといえば学びにくかった      | 学びにくかった       |              |
| Q7  | Q6の回答について、その理由を書いてください。  |           |                        |                      |               |              |
| Q8  | この授業は、学生が自主的に学ぶような設計になっていましたか。                                 | なっていた     | なっていなかった (Q10へ進んでください) |                      |               |              |
| Q9  | Q8で「なっていた」と答えた人だけ答えてください。自主的に学ぶことによって、授業内容についての理解が深まったと思いますか。  | 深まった      | どちらかといえば深まった           | どちらかといえば深まらなかった      | 深まらなかった       |              |
| Q10 | この授業では、授業時間外の学修を促すような設計になっていましたか。                              | なっていた     | なっていなかった (Q13へ進んでください) |                      |               |              |
| Q11 | Q10で「なっていた」と答えた人だけ答えてください。授業時間外の学修によって、授業内容についての理解が深まったと思いますか。 | 深まった      | どちらかといえば深まった           | どちらかといえば深まらなかった      | 深まらなかった       | 時間外の学修をしなかった |
| Q12 | Q10で「なっていた」と答えた人だけ答えてください。この授業で必要とされた授業時間外の学修は適切な分量でしたか。       | 多かった      | どちらかといえば多かった           | 適切だった                | どちらかといえば少なかった | 少なかった        |
| Q13 | この授業では、学生が学外での調査、見学を行うような設計になっていましたか。                          | なっていた     | なっていなかった (Q16へ進んでください) |                      |               |              |

|     |   |        |                |                   |               |                   |
|-----|---|--------|----------------|-------------------|---------------|-------------------|
| Q14 | Q13で「なっていた」と答えた人だけ答えてください。学外での調査、見学によって、授業内容についての理解が深まったと思いますか。                         | 深まった   | どちらかといえば深まった   | どちらかといえば深まらなかった   | 深まらなかった       | 学外での調査、見学に参加しなかった |
| Q15 | Q13で「なっていた」と答えた人だけ答えてください。この授業で課された学外での調査、見学は適切な分量でしたか。                                 | 多かった   | どちらかといえば多かった   | 適切だった             | どちらかといえば少なかった | 少なかった             |
| Q16 | あなたはこの授業について満足ですか、それとも不満ですか。  | 満足     | どちらかといえば満足     | どちらかといえば不満        | 不満            |                   |
| Q17 | この授業の良かった点を自由に書いてください。  |        |                |                   |               |                   |
| Q18 | この授業について改善すべき点について自由に書いてください。   |        |                |                   |               |                   |
| Q19 | この授業を通してあなたはどの専門分野に興味をもちましたか。興味をもったものをすべてお選びください。（複数選択可）                                | 経済理論   | 経済政策           | 経営・会計             | 法学・政治         |                   |
|     |   | その他    | どれも興味をもたなかった   |                   |               |                   |
| Q20 | 合同報告会で他のゼミの報告を聞いて、他ゼミの内容に興味をもちましたか。   | 興味をもった | どちらかといえば興味をもった | どちらかといえば興味をもたなかった | 興味をもたなかった     |                   |
| Q21 | 合同報告会について改善すべき点についてご自由にお書きください。   |        |                |                   |               |                   |
| Q22 | 最後に、1年生の1学期に履修した大学基礎論について伺います。大学基礎論では本の読み方やレポートの書き方を学びました。その時に学んだことは、この1年半の学びで役に立ちましたか。 | 役に立った  | どちらかといえば役に立った  | どちらかといえば役に立たなかった  | 役に立たなかった      |                   |